

地域ぐるみで取り組む防犯を含む生活安全の取組 (阿武町立阿武小学校、福賀小学校、阿武中学校)

〈ねらい〉

拠点校を中心に、コミュニティ・スクールの連携・協働体制を活用した学校・家庭・地域が連携した生活安全等を確保するための体制づくりを進める。学校安全に係る「チーム学校」の構築を図っていくが、「効果的な連携」及び「持続可能な取組」を重視して取り組んでいく。

取 組 内 容

- 1 実施期間：令和5年6月～令和6年2月
- 2 実施校：阿武町立阿武小学校（校長：塩田 徹夫）〈拠点校〉
阿武町立福賀小学校（校長：長岡 正紀）
阿武町立阿武中学校（校長：原田 隆史）
- 3 推進組織：教職員、保護者、学校運営協議会、阿武町健康福祉課、各支所長、各駐在所、子ども会育成連絡協議会、老人会、婦人会、民生児童委員、主任児童委員、保護司、少年相談員、交通安全指導員、防犯連絡指導員、みどり保育園、萩高等学校奈古分校、阿武町教育委員会、県教育庁学校安全・体育課、学校安全アドバイザー

4 取組内容

(1) 第1回推進委員会

校長、教頭、中核教員、そして阿武町教育委員会で構成する「推進委員会」で、取組の方向性や具体を検討し、各校が、それぞれの学校課題や地域の特性を念頭に、共通のねらいの達成に向けた取組を、協働しながら進めることを確認。

(2) 第1回実践委員会

「実践委員会」を既存の組織である阿武中学校区生徒指導推進協議会と兼ねたことにより、51名という多くの学校関係者が委員として参画することとなった。委員会においては、何のために本事業を行うのか、そのねらいを共有するとともに、中核教員等の役割や各校の取組の概要について確認し、協力体制を整えた。

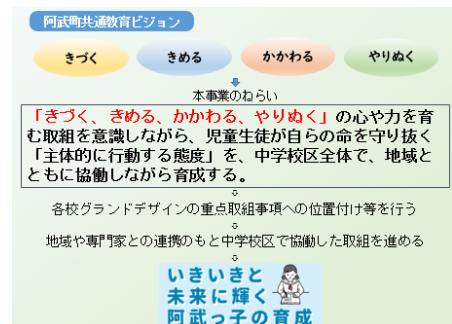
(3) 阿武小学校（5・6年生）の取組

① 合同学習

「もしも登下校中に大きな地震が起きたらどうするか…」の問いかけから児童の問題意識を高め、一人一台タブレット端末を使って危険な場所の検討付けと対応策を予め考え、地図に書き込んだ。その後、実際に通学路点検を行い、新たな気づきを書き加えた。

② 阿武っ子会議

学校運営協議会にあわせて、実践委員と中学校1年生参加のもと、5・6年生が、危険箇所やその対策について伝えアドバイスをいただく「阿武



っ子会議」を開催した。また、学校安全アドバイザーや県学校安全・体育課担当者からの助言も参考に、地図の更新を進めた。

③ 学習成果を伝える

6年生は学校行事「スタディ・フェスタ」で発表し、5年生は、地図をもとに一人一台タブレット端末を使って、ネット上に公開する「安全デジタルマップ」の作成を行った。



(4) 福賀小学校（全校児童）の取組

① 不審者対応避難訓練の実施

保護者が不審者役となり、実際場面での対応を実践形式で実施した。

② 安全デジタルマップ作成

みどり保育園分園といっしょにフィールドワークを行ったり、駐在所長さんからの話を聞いたりしたことをもとに、阿武小学校と同じシステムの「安全デジタルマップ」にまとめた。



(5) 阿武中学校の取組

① 阿武中全校講義・熟議

SNSによる性被害を防止するためのKYT教材づくりに向けて、専門家の講義を踏まえながら、実践委員との熟議をとおして、より多面的・多角的な視点を得ることができた。また、学校安全アドバイザー、県学校安全・体育課担当者からの評価、アドバイスも参考とした。



② 阿武中全校授業

一人一台タブレット端末を用いて、前回の熟議を生かしながらKYT教材を完成させた。



(6) 第2回実践委員会

3つの小・中学校から本事業に係る取組の報告を行い、その評価と検証を行った。

(7) 第2回推進委員会

山口県学校等安全連絡協議会に係る実践発表に向けて、阿武小・中学校の取組報告を1つにまとめる調整と、本事業の成果・課題等について協議を行った。



5 成果と今後に向けて

成果・学校安全を推進するための中核教員を各校に位置付け、カリキュラムに位置付けながら実践を進めていくことができた。

- ・実践を成果物として形にすることで、自らの学びを客観的に振り返ることができたり、それぞれの学びを他の人たちに広げたりすることができた。
- ・児童生徒のふりかえりから、単元構想のゴールイメージに近い言葉（防災・安全に主体的に取り組もうとする意欲、態度）が多く書かれていた。それは、専門的な知見（警察、学校安全アドバイザー、県学校安全体育課等）による「きづく」力の高まりや、地域の大人、児童生徒、友達との協働的な学びによる「かかわる」力の高まりが効果的であった。
- ・身近な信頼できる大人の存在に気付くことができた。

今後・小学校のデジタルマップと中学校のKYT教材を、小・中学校が相互に利活用する学習として、小中一貫教育における9年間の学びと育ちをつなぐ学校・地域連携カリキュラム「ふるさと学習（ABU学）」に位置付け、より効果的に、持続可能な取組にしていく。

- ・安全・安心等にかかわる取組を進めるにあたっては、学校、地域の連携だけではなく、広く保護者の理解と協力が欠かせない。この事業のねらいや成果物を多くの保護者にも知っていただき、児童生徒の学びと育ちをともに支えていく一助にしていく。